就職活動生の内省を促す対話カードの開発
ー聴き手のためのインストラクションを改善するー

京都芸術大学 通信教育課程 学際デザイン研究領域研究室

三國信夫、臼井真由美、奥井伸輔、工藤春華、瀬戸亜美

目次

１．研究成果

（１）　はじめに

（２）　ユーザー観察

（３）　出来上がったプロダクト

（４）　効果検証

（５）　考察・今後の展望

２．2022年度の活動報告

　学会発表

１．研究成果

（１）はじめに

研究背景

日本において、若者の入社後3年以内での早期離職が社会問題となっている。原因の一つに、就職決定時に内定先に満足できていない「不本意就職」がある（石黒、2017）。「不本意就職」学生は「本意就職」学生に比べると後の離転職経験が多く（高崎、2016）、早期離職は若者のキャリア形成を妨げると言える（前田、2010）。しかし現状は有効な解決策に乏しい。

我々は、就職活動生の対話と内省を促すため、一般的にコミュニケーションツールとして有効とされる対話カードに着目し、希望通りの就職決定ができない不本意就職を減らすことを期待して、デザイン思考のプロセスに則って就職活動生の内省を促す対話カードの開発をした（三國、2022）。開発したカードを用い筆者らが聴き手となり、被験者の大多数で内省の深まりが見られた。社会実装のためには、研究員以外が聴き手となっても有効性を発揮できることが必要であるが、本対話カードは研究員がその使用方法を理解していることを前提としており、研究員以外が聴き手になることを想定していない。

就職活動生が他者の就職活動について聴くと、自分とは異なる考え方に触れ、内省をもたらす効果が期待できる。就職活動ではないが、学級経営について、教師が他者の実践を傾聴することにより、内省し気づきを得ることが報告されている（伊藤、2021）。また、臨床心理実習において被傾聴体験が良い聴き手になることを支援する報告があり、対話カードで話し手を経験した学生は良い聴き手になり得る（山田、2021）。就職活動生が聴き手になることにより、就職活動生同士で話し手・聴き手を繰り返すことで、就職活動に関する内省と聴く力の向上を得る好循環も期待できる。

そこで本研究では、就職活動生の内省を促すツールとして対話カードを就職活動生同士で利用できるよう改良し、その効果検証を行った。

2021年度の成果・課題

<カードの開発コンセプト>

1. 就職活動生が就職活動についてとことん話すサポーとなる
2. 就職活動生が自然と内省につながる対話ができる
3. 就職活動生の話を聴く人にとって聴くサポートとなる

<内省を深めるための理論モデル>

ALACTモデルを採用(コルトハーヘン Korthagen,1985)（図１）

<ALCTモデルを基に対話カード開発>

- 就職活動生が自身の就職活動について、対話を通じて振り返ることができるよう、ALACTモデルをもとに開発。
- 就職活動生が「本質的諸相への気づき」「行為の選択肢の拡大」を得やすいよう、改良を加えて5つのステップとして対話を行う。
- 5つのステップを示したシート(コミュニケーションシート)と、ステップ1と2をカード化したもの(行動カード&感情カード)を作成。
- 行動カード・感情カードはユーザー観察の際のインタビューから、就職活動生の行動や出来事、感情に関する言葉を抽出、分類し作成。枚数は厳選しつつ、学生の「素の言葉」を活かす工夫。実際のテストを通じて改良。

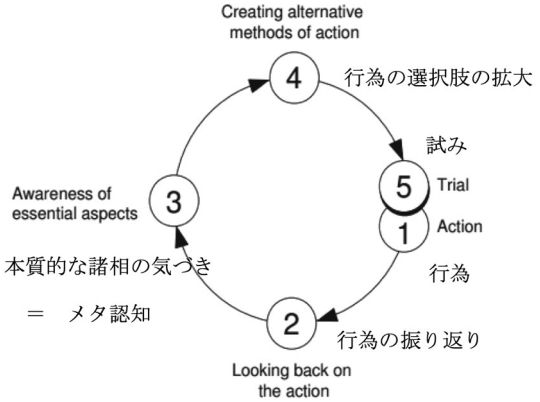
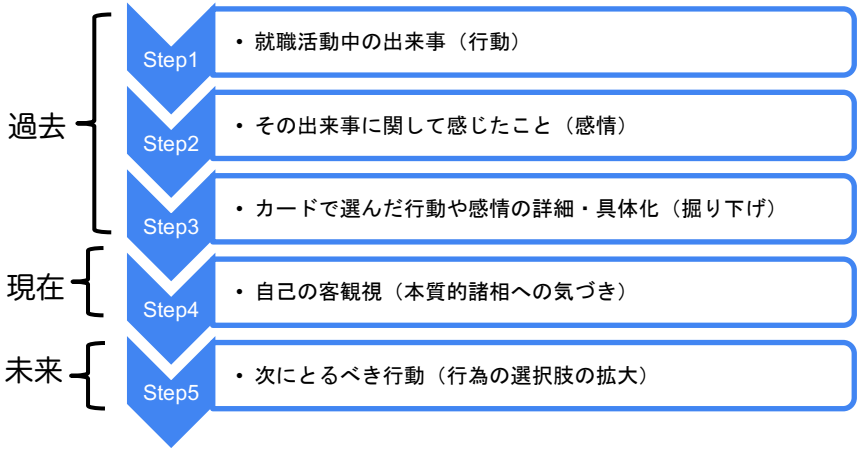


図１　ALACT モデル



2021年度開発　コミュニケーションシート

コミュニケーションシート

1	2	3	4	5
何があったの？ （水色のカードを置く）	どう感じていた？ （ピンクのカードを置く）	その気持ちについて もう少し詳しく 聞かせて！	今話してみて どんな感じ？ 今の自分から 見てどう思う？	これから どうしてみたい？

最後に。一通り話し終わったら、
お互いに気が付いたことを伝えあってね。

2021年度開発　行動カード（20枚）

何もしてない

手持ちの駒がなくなる

マニュアルは必読

そろそろ就活

とりあえず大手企業をポチポチ

ES（エントリーシート）何度も書き直し

志望先を変える

面接で思いを伝える

お祈りメールばっかり

自己分析で自分を見つめる

先輩の行った会社を見てみる

ナビサイトに登録

1日に何個も説明会

周りと自分を比べる

内定もらっても続ける

まずはインターンに応募

受かった

本音が言えない

誰かに相談

やりたいことできる会社

2021年度開発　感情カード（30枚）

（２）ユーザー観察

ユーザー観察

◆プロトタイプテストの目的

聴き手が学生の場合でも内省を促すインストラクションを実施できるか観察する

◆プロトタイプテスト概要

2021度版に改良を加え、研究員以外の大人を聴き手としてテストを実施したところ、聴き手が、話し手の内省を促すような対話をスムーズに進めることが予想以上に難しいことが分かった。構成物が複雑になると、聴き手は進行だけで手一杯になることや、内容を読まずに進めてしまうなどの傾向が見られた。そこで聴き手のためのインストラクションを聴き手がスムーズに進行するためにはどうすれば良いかに焦点を当て、プロトタイプを2パターン作成し、聴き手を大学生にしてテストを行った。

プロトタイプ①テスト

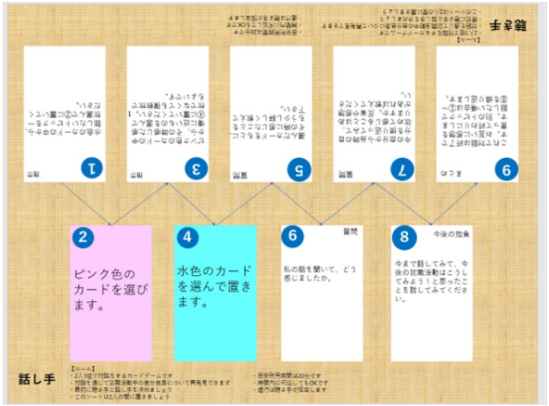
対象：就職活動中の大学生6組

実施：2022年7月12日、7月14日

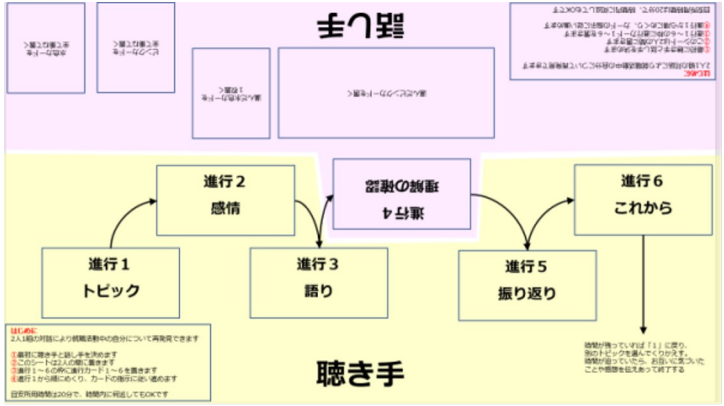
項目：コミュニケーションシートを2パターン作成

方法：2人1組で対話

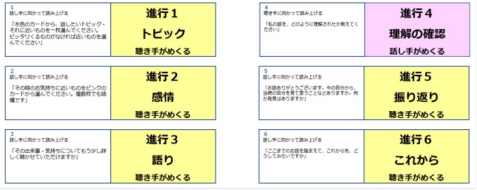
ユーザー観察方法：録画動画視聴



パターン1



パターン2



プロトタイプ①テスト結果

手法：6組の対話中の記録動画を視聴し、発言を分析

内容：テスト中の聴き手の行動を8つのフェーズに分類した

準備する	行動カードを選ぶ	感情カードを選ぶ	話す	伝え返す	振り返る	未来を考える	クロージング

この8フェーズを、7カテゴリー（期待する行動・実際の行動・感情・手順どおりに進行できたか・無条件の積極的関心が発揮できたか・共感的理解が発揮されたか・気づき）でチェックした。

行動の８つのフェーズ

Phase	0	1	2	3	4	5	6	7
Phaseの説明	準備する	行動カードを選ぶ	感情カードを選ぶ	話す	伝え返す	振り返る	未来を考える	クロージング
期待する行動	「はじめに」を読んで指示通りカードをセットし、役割決める	行動カードを一枚選ぶことを話し手に伝え、話し手が選ぶ	感情カードを複数枚選ぶことを話し手に伝え、話し手が選ぶ	詳細を話すように話し手に伝え、話し手が詳細を話す	話し手の話を聴き手がどのように理解したか伝え返す	話したことを振り返って、今感じること、気づいたことを考えるように伝え、話し手が考え話す	これからどうしてみたいか考えるように伝え、話し手が考え話す	お互いに気づき・感想を言う
実際の行動	カードは並んでた（動画始まる前）。 説明は読んでいた わからないと言いつつ、めくっていた。めくってわかった。	選んでた 聞き手が進行わかってないから、話し手が説明見ながらめくる、読むように誘導。	選んでた	聞き手がカードをめくって、話し手に話すように促していた。 ちゃんと進行できていた	伝え返していたけれど短い いっぱい感情カード出したのに、さっと要約されていた。自分の印象に残ったことだけを喋った	とりあえず進行カードはめくれたが、指示の内容が理解できなかった（当時がわからない）。 今の話をしているんだけど、ってなっていた。 最終的には、コメントしていた。	未来について考えて話していた。	
感情	戸惑い。わかんなーい、みたいな。 途中で気づいた。	話し手がちょっとわかっていない感じ	わかんないー、って言いながら楽しそうに選ぶ	話し手はカードを説明するために順序立てて脳内整理していた。	答え合わせしている。	戸惑い。わからない。	よく考えていた。	
対話カードを手順通り進行できたか	はい	聞き手がわかってなかった。話し手はわかっていた。話し手に誘導されていた。	聞き手がわかってなかった。話し手はわかっていた。話し手に誘導されていた。	手順通りにできていた	できた	一応できたが、当時がわからなかった。（△）	できた	
無条件の積極的関心が発揮されたか ・話し手の話をさえぎらない ・話し手の感情や考えを理解しようとする ・アドバイス・善し悪しの判断を行わない	なし	なし	なし	はい。 わかるー、意外ー、とかなかった。淡々としていた。	なし	ほとんど話してない。二人で進行カードの質問を言っていただけ。	聞き手も相手の顔を見て聞いていた。頷いていた。	
共感的理解が発揮されたか ・理解したことを伝え返す	なし	なし	なし	なし	言葉尻だけと捉えると発揮されていない。答え合わせみたいになった。	それどころではない。進行カードの内容がわからない。	なし	
気付き	特になし	話し手はわからなくなったら都度ルールを確認していた。聴き手は話し手に誘導されていた。		2枚めくり終わって、ルールを掴んで、進行できるようになった。 いい意味でも悪い意味でも淡々とルール通りにこなしている感じになりがち。	感想に近い感じになった 伝え返されて、話し手のリアクションは、はいあってます、みたいになってた。	「当時」は今の話なんだけどってなる。	指示がパッとわかりやすいから、話しやすい、聞きやすい 話し手は短時間でよくあれだけ出てきた。 もともと持っていた答えを出したのか、頭がいいのか。 やるべきことはわかっていた。	
全体メモ	手順が良くわからないと、聞くことに集中できない 話す時間が短すぎて、共感も何もない。何させられているかよくわからないから。 このカードは内省を深めるもの、くらいは言っても良かったかも。	客観視という言葉はわからない 別の言葉で表現しましょう。言い換えてみましょう。 今このカードを選んだ自分をどう思いますか。 狙っていたレベルまでは聞けてない やることがシンプルでわかりやすいと、話したり聞いたりに集中できるが、やることがわかりにくいと話したり聞いたりに至らない。	本当に話すことがなくなったと気に使えるお助け質問カード。 聴き手の質問カード。 行き詰まった時に使えるカード。 聞き手が指示を出す前提だが、聴き手は進行しなくてもいいのかも。 聞き手ガイドでよかったのかも。 進行するのに手一杯になっちゃう。		あってます、と言いつつ、心の中で何か思っている。全く言い換えなしで復元がいいのか、要はこういうこと、みたいな方がいいのか。			

プロトタイプ①課題１

課題１：自然な対話になっていない

→原因
- 聴き手が何を話したら良いかわからない
- 聴き手がストーリーになるまで深掘りしない
- 指示が細かすぎる
- 脱線できない構造になっている
- カードを選ぶステップが２つ連続する

→解決の方向性
聴き手から進行の役割をなくす（聴き手が話し手に指示をすることを無くす）
- 行動をシンプルに分解すると、カードを使って、対話して、内省が深まっていればOK
- 進行がシンプルであれば自然になるのではないだろうか - 全体をシンプルにした

プロトタイプ①課題２

■課題２：過去現在未来が意図通り伝わっていない

→原因

学生が行動に対して、過去現在未来といった時間軸を意識できない

→解決の方向

コミュニケーションシートに記載されている「当時」「客観視」などの文字表現に頼るのではなく、シートの【デザイン】で、「当時」「客観視」が自然と振り返られるような仕掛けがあるといいのではないだろうか。

プロトタイプ②テスト

◆プロトタイプテスト概要

プロトタイプ①を改良しプロトタイプ②を2パターン作成した

◆プロトタイプ②テスト

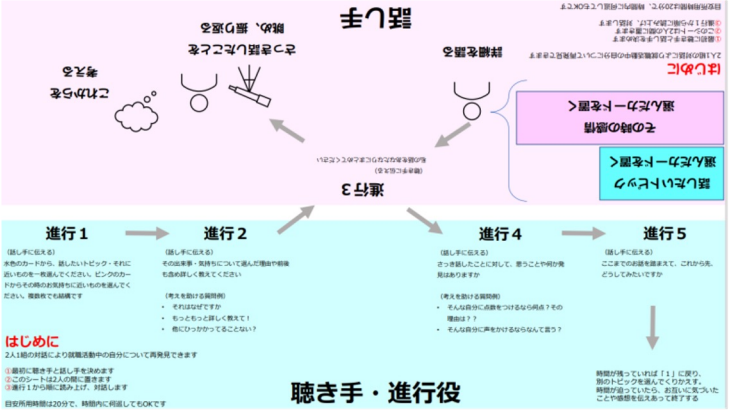
対象：就職活動中の大学生　6組

実施：2022年11月28日

項目：プロトタイプ2パターンを実際に使用

方法：2人1組で対話

ユーザー観察方法：録画動画視聴



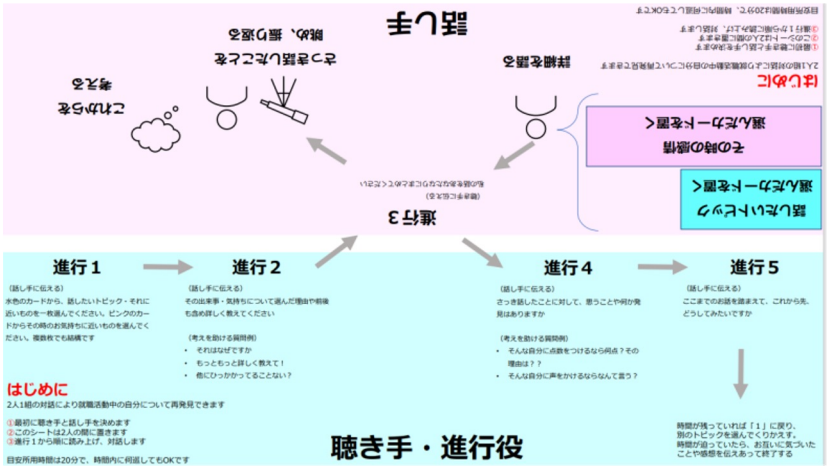
プロトタイプ②テスト結果

手法：6組の対話中の記録動画を視聴し、発言を分析

内容：プロトタイプ①と同様

結果：プロトタイプ②では2パターンとも全てを満たすことができた。

そこで、学生同士の対話のスムーズさから、以下のパターンを採用することにした。

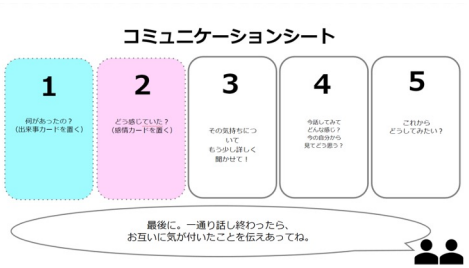


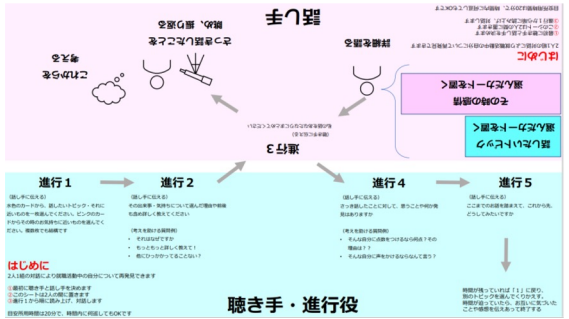
（３）出来上がったプロダクト

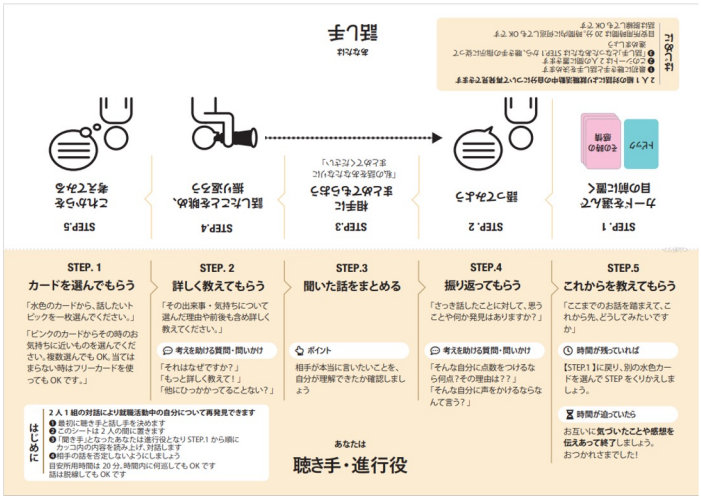
コミュニケーションシート

2021年度版(ver.1)はアラクトモデルにのっとり、5段階で自分の行動を振り返るステップを踏めるように作成し、対話する2人の間にシートを横向きに置くように設計した。聴き手は研究チームが行ったため、話し手向けの説明のみをシートに記載した。

2022年度版（ver.2)は聴き手を就職活動生に実施してもらうことを年頭におき、対話の進行を促す聴き手用のガイドも盛り込んだ。また、ver.1では3と4の間に思考の飛躍が必要であり、４の振り返りがうまく行かないことがわかった。そのため、ver.2では聴き手側に「STEP.3 聞いた話をまとめる」（傾聴の聴く側の3要素「ロジャーズの3原則」を参考にし、「共感的理解」を促すために「伝え返す」というプロセス）を追加し、聴き手側が話し手の話を客観的にまとめることで、話し手が自分の話を客観的に振り返りやすいようにした。（コミュニケーションシートはどれも実際はA3サイズ）







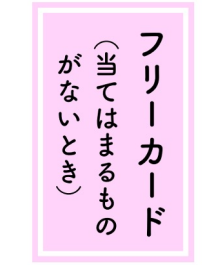
2021年度版（ver.1）　プロトタイプ最終版　2022年度版（ver.2）

行動カードと感情カード

コミュニケーションシートとセットと使う行動カードと感情カードは昨年度作成したものを継続して採用した。検証の中で、カード化されていない行動や感情について対話したいというニーズがあることがわかったので、自由に話すことができる「フリーカード」を作成した。（カードはすべて名刺サイズ）

行動カード（20枚）

感情カード（30枚）



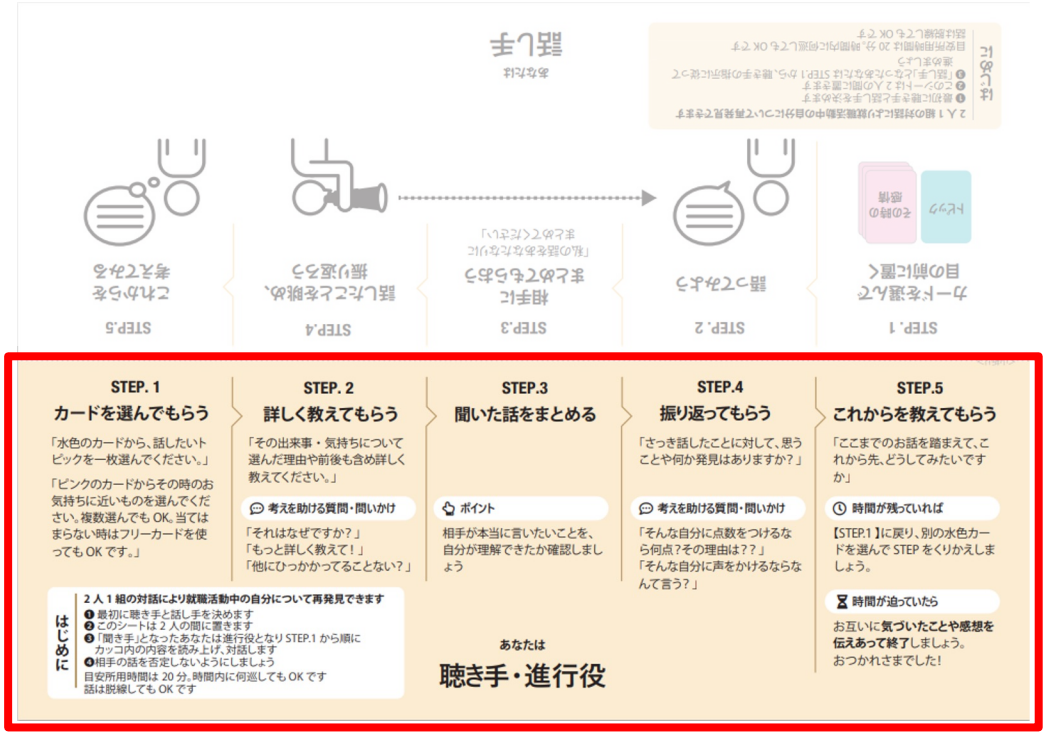
新しく作成したフリーカード

改良後のコミュニケーションシート（全体）

【改良点】

- 向かい合って使用する前提で、話し手、聴き手それぞれから正面に説明書きが見えるようにデザインを工夫。
- コミュニケーションシートの使い方を読み飛ばされないようにするため「はじめに」という説明を明記。
- 自分の役割がわかるように、手元に「あなたは話し手」「あなたは聴き手・進行役」ということを明記。

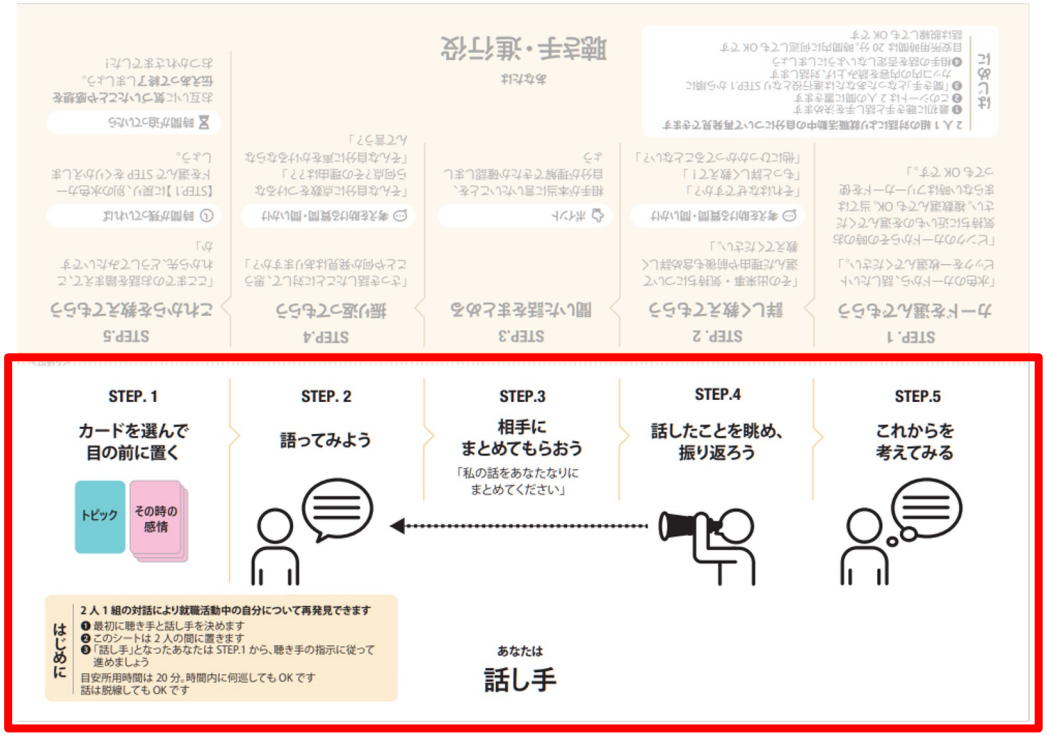
改良後のコミュニケーションシート（聴き手・進行役）



【改良点】

- 進行の順序がわかりやすいようにSTEPごとの番号を記載。また、矢印をつけることでわかりやすくした
- 聴き手が対話の進行をしやすいように具体的なコメントを「」付きで提示
- STEPの内容が理解できるようにポイントを解説
- 対話を深めるために、話し手の考えを助ける質問、問いかけを追加で記載

改良後のコミュニケーションシート（話し手）



【改良点】

- 進行の順序がわかりやすいように各STEPの番号を記載。また、矢印をつけることでわかりやすくした
- 各STEPの目的を理解しやすくするため、アイコンをおいて視覚的に説明した

（４）効果検証

検証方法

就職活動中の大学生に、二人一組で対話カードを用いた対話を行ってもらい、内省が深まったかを検証

期間　　：2023年1月10日～2023年1月19日

方法　　：二人一組で対話カードを使用しての就職活動についての対話(20分間)

形式　　：対面

協力者数：10名（内訳：学部3年生4名、短期大学1年生6名）

就職活動実施状況：

これから開始予定　7名

内定を目指して活動中　2名

内定を得ているが引き続き活動中　1名

検証の構成

- 以下の構成で実施。
- なお、調査立会者は対話カードの利用方法については説明を行わず、被験者自身が使い方を理解しながら対話を勧めた。

Part		内容	時間
1.	インストラクション	検証の目的、内容を説明	５分
2.	対話①	カードを用いて対話を行う	20分
	（聴き手、話し手の交替）		
	対話②	カードを用いて対話を行う	20分
3.	アンケート	アンケートへの回答	5分

検証の分析方法

【検証項目】
・とことん話せたか
・内省が深まったか
　ー諸相への気づきがあったか
　ー行為の選択肢の拡大があったか
・就職活動生が聴き手となりうるか

【分析方法】
①　とことん話せたかどうか　ー　【事後アンケート】

②　内省が深まったかどうか　ー　【発話分析】

録画しているテスト動画を、内容分析の手法を用いて分析する。

【手順】
対話を文字起こしによりテキスト化

1. 分析カテゴリー（※）に該当する話し手の発言を抽出。（参加者全員分について実施）
2. チーム内の異なる研究員がカテゴリ該当性をクロスチェック。
3. 分析カテゴリーに該当する発言が見られれば、内省が深まったと評価する。

※分析カテゴリは2021年度の研究で用いたものを利用し、検証結果を比較できるようにする。

③　就職活動生が聴き手となりうるか　ー　【録画の評価】

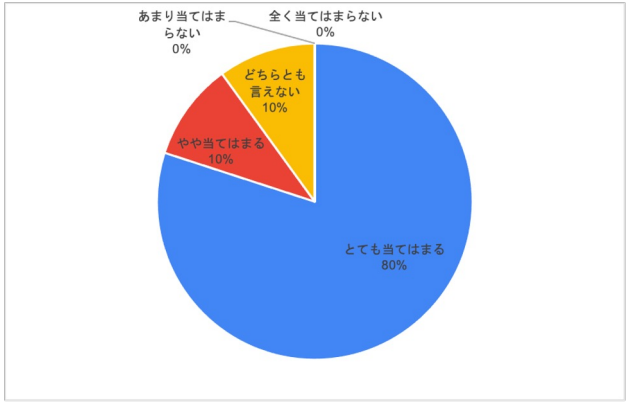
録画しているテスト動画から、聞き手に求められる評価項目への該当性を確認した。評価はチーム内の異なる研究員がクロスチェックを行った。

1．とことん話せたかどうか

検証後に実施したアンケートの結果を集計

- 3項目とも「やや当てはまる」「とても当てはまる」が90%以上を占め、就職活動生本人の満足度は高かったことが分かる。
- また、対話カードが就職活動に役に立ったかどうかの質問についても、「やや当てはまる」「とても当てはまる」を合わせて90%となった。

		全く当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	とても当てはまる	総計
自分の話をちゃんと聴いてもらえた	人	0	0	0	1	9	10
	%	0%	0%	0%	10%	90%	100%
本音を話すことができた	人	0	0	1	1	8	10
	%	0%	0%	10%	10%	80%	100%
話してスッキリした	人	0	0	0	2	8	10
	%	0%	0%	0%	20%	80%	100%



この対話カードを利用することは私の就活にとって役に立った

アンケート調査項目①
「自分の話をちゃんと聴いてもらえた」

- 被験者10名中「とても当てはまる」9名、「やや当てはまる」1名と回答した。
- 自由記述で理由を尋ねたところ、以下のように分類できた。

  聴き手からの「相槌」「頷く」などの反応：4名

  聴き手の「聞き返し」「質問」「話をまとめる」などの行動：3名

  カードの効果による話しやすさ：1名

  思いの交換、共有、会話などの聴き手と話し手の相互作用：3名

- 相手の反応があって「ちゃんと話を聞いてもらえた」と感じた被験者が7名おり、頷きなどの傾聴姿勢が大事であると推察される。
- 「聞き返し」「質問」「話をまとめる」などはコミュニケーションシートに記載されてたインストラクションがあり、これらが効果的に働いたといえる。

アンケート調査項目②
「本音を話すことができた」

- 被験者10名中「やや当てはある」1名、「とても当てはまる」8名、「どちらとも言えない」1名と回答した。
- 自由記述で理由を尋ねたところ、回答の内容にまとまった傾向は見られなかったが、今回の調査において、対話する相手は普段から大学で交流のある友人関係だったので、話しやすかったと考えられる。
- カードを通して話す機会を提供されたこと、2人だけの対話だったことで、本音を話しやすかった可能性はあるが、比較する調査はしていないので明言はできない。
- 「どちらとも言えない」と回答した1名は、その理由として「本音を話すことは恥ずかしい」と回答したが、内容分析の結果からは客観的に内省は深まっていた。

アンケート調査項目③
「話してスッキリした」

- 被験者10名中「やや当てはまる」2名、「とても当てはまる」8名だった。
- 自由記述で理由を尋ねたところ以下の二通りの傾向があった。

  ・「話せてすっきりした」→思っていたことを口に出せたことがよかった

  ・「話し合うことで頭の中が整理できてすっきり」→相手と話合うことで考えが整理された

- 対話カードの効果として、会話ができたことそのものですっきりした場合と、頭の中が整理された、考えが整理できたとしている場合の二種類があると考えられる。

アンケート調査項目④
「対話カードは就活にとって役に立つ」

- 被験者10名中「とても当てはまる」8名、「やや当てはまる」1名だった。
- 「どちらとも言えない」を選んだ1名はまだ就職活動の結果が出ていない状況なので、カードの効果が「現状は不明」であると回答している。
- 自由記述で理由を尋ねたところ、以下のように分類できた。

  ・考えたが整理できた　5名

  ・意見交換、話し合う機会になった　4名

  ・アドバイスがもらえた１名

- 対話カードは内省を深めることを主眼に置いたものであり、「考えが整理できた」と答えた被験者が5名いたことは、内省が就職活動に有効であると考えられる。
- また、話し合う機会そのものも就職活動にとって重要であると考えられる。

２．内省が深まったか

〈発話分析〉

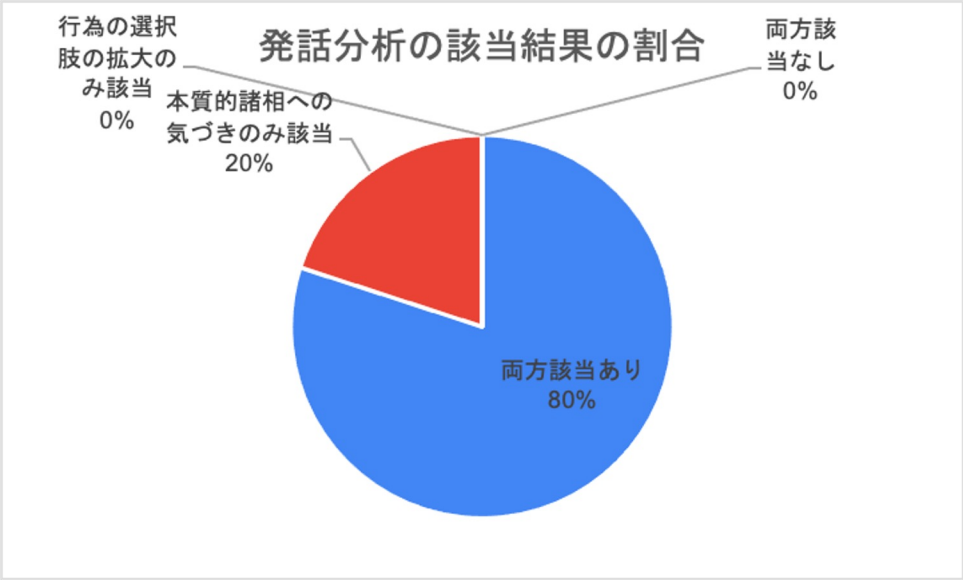
- 2021年度の研究にて作成した分析カテゴリーに従い発話を分析した
- 1~3に関する発言があれば「本質的諸相への気づきがあった」
- 4~8に関する発言があれば「行為の選択肢が拡大した」と判断した

1	今の自分に対する気づき	本質的諸相への気づき
2	自分が求めていることに対する気づき	
3	自分の活動状況に対する気づき	
4	自己理解を深める行動	行為の選択肢の拡大
5	行きたい企業を探す行動	
6	就活プロセスを理解する・進める行動	
7	内定獲得のための行動	
8	第三者からの助言を求める・生かす行動	

分析カテゴリー

内省が深まったか①

- 発話分析の結果、全ての被験者で8つのカテゴリーのいずれかに該当する発言が見られ、内省が深まったと評価できた。
- 一方で、２割の被験者は、「本質的諸相への気づき」は見られたものの「行為の選択肢の拡大」は見られなかった。



	全員 n=10
両方該当あり	8
本質的諸相への気づきのみ該当	2
行為の選択肢の拡大のみ該当	0
両方該当なし	0

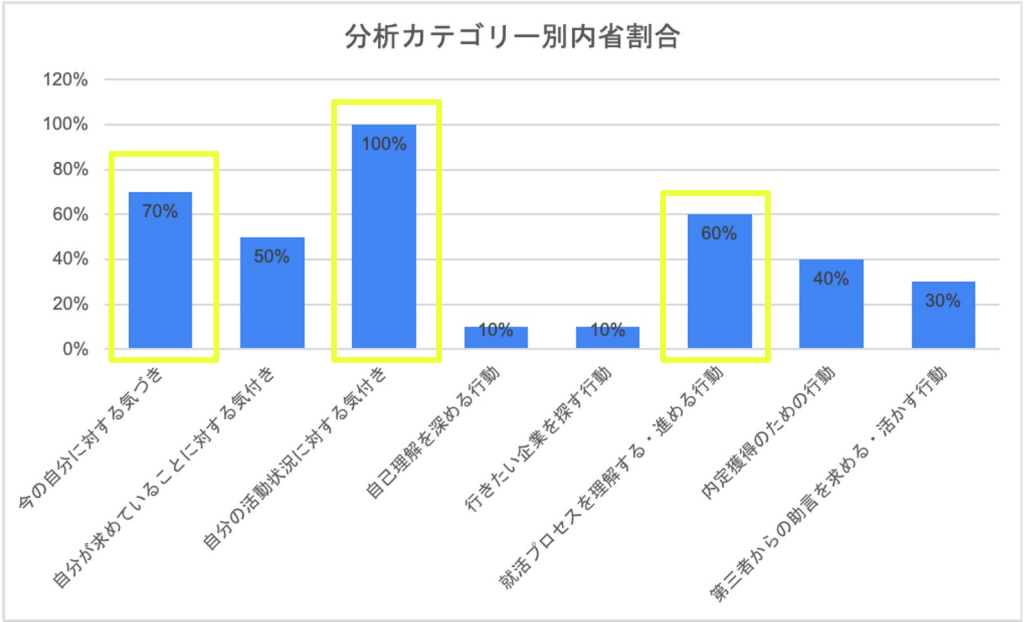
内省が深まったか②

対話カードを手順通り進行した被験者と、手順通り進行しなかった被験者を比較すると、手順通り進行しなかった被験者に「行為の選択肢の拡大」が見られない割合が高かった

	全員 n=10	手順通り進行できた n=7	手順通り進行できなかった n=3
両方該当あり	8	7	1
本質的諸相への気づきのみ該当	2	0	2
行為の選択肢の拡大のみ該当	0	0	0
両方該当なし	0	0	0

内省が深まったか③

分析カテゴリー別に見ると、「自分の就職活動への気づき」「今の自分に対する気づき」「就職活動プロセスを理解する・進める行動」への該当割合が高かった。



３．聴き手の評価

今回の検証では、学生が聴き手となり得るかについても評価を行った。

【評価項目】

①手順通り進行できたか

②聴き手に求められる役割を果たせたか。

- 共感的理解（話し手の感情や考えを理解しようとする）
- 無条件の肯定的関心（話し手の話を遮らない、アドバイス・良し悪しの判断を行わない）

※②はロジャーズの３原則を基に設定。ただし、３原則のうち「自己同一」については難易度が高いため、評価対象としなかった。

聴き手の評価

- 7割の被験者が手順通りに進行できた。
- 8割以上の被験者が無条件の積極的関心を示すことができた
- 共感的理解については、Step3に「伝え返し」を設定した。8割の被験者はStep3で伝え返しができていた。
- また9割はStep3以外でも伝え返していた。結果として被験者全員が伝え返しができたと評価できる。

①　手順通り進行できた	
該当率（n=10）	70%

②　無条件の積極的関心			
	話をさえぎらない	感情や考えを理解しようとする	判断を行わない
該当率（n=10）	90%	100%	80%

③　共感的理解			
	step 3で伝え返す	step 3以外で伝え返す	どこかで伝え返す
該当率（n=10）	80%	90%	100%

（５）考察・今後の展望

考察①　学生でも聴き手の役割を果たすことができた。

- 9割以上の学生が、手順通りに進行できるようになった。
- 8割以上の学生が、聴き手に求められる役割（共感的理解・無条件の肯定的関心）を果たすことができた。

考察①　学生が聴き手でも対話カードは有効であった。

- 「とことん話す」ことが、9割以上の学生同士でも達成できた。
- 聴き手が学生でも、話し手は「自分の話をちゃんと聞いてもらえた」「本音を話すことができた」「話してスッキリした」と感じることができた。
- 9割以上の学生が、対話カードは就職活動に役に立つと感じた。
- 8割以上の話し手に「本質的諸相への気づき」「行為の選択肢が拡大」の両方が見られ、内省の深まりが観察された。

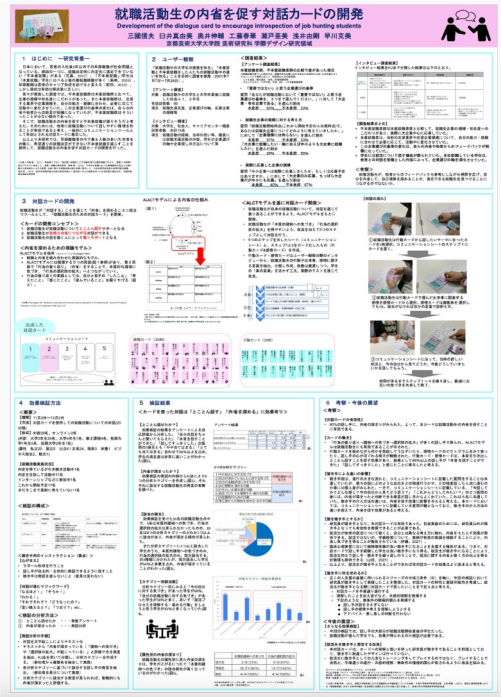
今後の展望

- 異なる就職活動時期における効果の検証
- 行動カード、感情カードのデザインの改善
- 就職活動生に対話カード継続利用を促す方法の検討
- 社会実装に向けて具体的な方法の検討

２．2022年度の活動報告

2022年度の活動報告

・2021年度の研究の成果を日本教育工学会2022年秋季全国大会にてポスター発表



掲示したポスター

掲示したポスター前に集合したチームメンバー

日本教育工学会2022年秋季全国大会　研究要綱

就職活動生の内省を促す対話カードの開発

Development of the dialogue card to encourage introspection of job hunting students

三國　信夫／臼井 真由美／奥井　伸輔／工藤 春華／瀬戸　亜美／浅井　由剛／早川　克美

Nobuo MIKUNI /Mayumi USUI / Shinsuke OKUI / Haruka KUDO / Ami SETO / Yugo ASAI / Katsumi HAYAKAWA

京都芸術大学 大学院 芸術研究科 学際デザイン研究領域

Kyoto University of the Arts Graduate School

＜あらまし＞　就職決定時に内定先に満足できない大学生の「不本意就職」について調査したところ、本意就職群は、自らの内省や他者からの助言を契機に志望を柔軟に変化させる一方で、不本意就職群は、内省や助言の機会が少なく志望の選択肢にひろがりがない傾向が見られた．そこで、不本意就職の解消を期待して、コミュニケーションツールとして有効とされる対話カードに着目し、デザイン思考のプロセスに則って就職活動生の内省を促す対話カードの開発した．開発したカードを用い効果検証を行ったところ、被験者の大多数において、内省の深まりが見られた．

＜キーワード＞　進路指導，就職活動，不本意就職，コミュニケーション，カード，デザイン．

1．はじめに

日本において、若者の入社後 3 年以内での早期離職が社会問題となっている．原因の一つに、就職決定時に内定先に満足できていない「不本意就職」がある（石黒, 2017）．「不本意就職」学生は「本意就職」学生に比べると後の離転職経験が多く（高崎・中原, 2016)、早期離職は若者のキャリア形成を妨げると言える（前田・濱秋・堀・村田, 2010)．しかし現状は有効な解決策に乏しい．

本研究では、早期離職者の中で最も人数の多い大卒者を対象に、不本意就職を減らすことを期待して、デザイン思考のプロセスに則って、就職活動生の内省を促すツールとして「対話カード」を開発し、その効果検証を行った．

2．ユーザー観察

筆者らはまず、就職活動中の大学生の実態や本意就職者と不本意就職者の就職活動中の違いを把握することを目的に、当事者らに対してアンケート調査及びインタビュー調査を実施した．

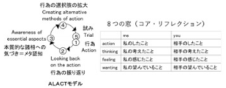
調査の結果、本意就職者は、当初の志望業界や志望企業規模について、必要に応じて活動中に変化させていることがわかった．この志望先の変化は、就職活動生自身の内省や他者からのフィードバックが契機となることが多く見られた．一方で、不本意就職者は就職活動について他者と話す機会が限られており、企業規模や知名度への拘りが見られた．

以上から、就職活動生が他者からのフィードバックも参考にしながら視野を広げ、内省して自己理解を深めることが、満足できる就職先を見つけることにつながるのではないかと考え、就職活動生が「対話する」ことを通じて「内省」を深めることに役立つツールの開発を行うこととした．ツール形式としては、すでにコミュニケーションツールとして広く使われているカード形式を採用し「対話カード」とした．

3．対話カードの開発

対話カードは、教育学者であるコルトハーヘン（Korthagen,1985）が提唱する経験と内省を組み合わせた実践的なモデルである「ALACT モデル」を基に開発した．この ALACT モデルには循環する５つの局面があるが、第二局面で「行為の振り返り」（内省）をすることで、本質的な諸相に気づき、「行為の選択肢の拡大」へとつながっていく．行為の振り返りの実践としては、自分と相手の「したこと」「考えたこと」「感じたこと」「望んでいること」を掘り下げる（図１）．

＜図１　ALACT モデルによる内省の仕組み＞



引用一部改変し作図：「深い学び」を実現するための探究学習とは(2) ,村上忠幸・向井 大喜　教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要 第１号 2019 ／成人学習の視点からとらえる教師の学びと省察, 金子 瞳, 上越教育大学研究紀要, 40(2), 399-412, 2021

筆者らは就職活動生が第二局面から、第三局面「本質的諸相への気づき」及び第四局面「行為の選択肢の拡大」につながりやすいよう、以下の 5 つのステップに沿って対話を行うツールとした．

- **Step1**　就職活動中の出来事（行動）
- **Step2**　その出来事に関して感じたこと（感情）
- **Step3**　行動・感情の詳細・具体化（掘り下げ）
- **Step4**　自己の客観視（本質的諸相への気づき）
- **Step5**　次にとるべき行動（行為の選択肢の拡大）

具体的には、これら 5 つのステップを示したシート（コミュニケーションシート）及び、ステップ 1 と 2 をカード化したもの（行動カード・感情カード）を作成し、これらを一体として、「対話カード一式」（図２）とした．

＜図２　対話カード一式＞

4．効果検証

開発したカードについては実際に就職活動中の学生 31 名の参加を得て効果検証を行った．

【期間】2021 年 11 月 2 日〜12 月 2 日

【方法】対話カードを使用しての就職活動についての対話(20 分間)

【形式】対面 29 名、オンライン 2 名

（内訳　大学 3 年生 20 名、大学 4 年生 1 名、修士課程 4 名、短期大学 1 年生 5 名、短期大学 2 年生 1 名）

対話終了後、被験者の発話の内容のうち、内省が深まったと評価できる発言を抽出・分類し 8 つのカテゴリーを作成した（図３）．その上で、各被験者がそれぞれのカテゴリーに該当する発言をしていたかどうか調べた．結果、31 名の被験者中 28 名は 8 つのカテゴリーのどれか 1 つ以上に該当があった．この 28名のうち 64%の学生は、本質的諸相への気づきと行為の選択肢の拡大の両方について、関連する発話が見られた (図４)．

＜図３・図４＞８つの分析カテゴリーと各カテゴリーへの該当の有無

1	今の自分に対する気づき	本質的諸相への気づき
2	自分が求めていることに対する気づき	
3	自分の活動状況に対する気づき	
4	自己理解を深める行動	行為の選択肢の拡大
5	行きたい企業を探す行動	
6	就活プロセスを理解する･進める行動	
7	内定獲得のための行動	
8	第三者からの助言を求める･生かす行動	

	人数(人)	割合
両方該当あり	20	65%
本質的諸相への気づきのみ該当	4	13%
行為の選択肢の拡大のみ該当	4	13%
両方該当無し	3	10%

6．考察及び今後の展望

検証の結果、31 名中 28 名（約 90%）の被験者に内省の深まりがみられた．よって、本カードは就職活動生の内省を促すことに有効であるといえる．また、被験者のうち 64%は、行為の振り返りをすることで、本質的諸相への気づきと行為の選択肢の拡大が得られており、ALACT モデルは就職活動生にも有効であることが示された．

一方で、今回の検証では、被験者の大部分が就職活動開始直後の学生だったため、就職活動が進んだ学生でも、効果が得られるのか検証が必要である．また、今回の検証では筆者らが聴き手となったが、今後は、誰が聴き手となるか、良い聴き手になるために何が必要かについて検討する必要がある．

＜参考文献＞

- Korthagen, Fred AJ. "Reflective teaching and preservice teacher education in the Netherlands." *Journal of teacher education* 36.5 (1985): 11-15.
- 村上忠幸, and 向井大喜. "「深い学び」 を実現するための探究学習とは (2)." 教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要= Journal of Education Research Center for Educational Career Enhancement 1 (2019): 1-10.
- 金子瞳, and 松本健義. "成人学習の視点からとらえる教師の学びと省察." 上越教育大学研究紀要 40.2 (2021): 399-412.
- 石黒香苗. "希望通りでない一般企業へ就職をした大学新卒者の主観的体験プロセス: 進路への納得に至るプロセスに着目して." 産業・組織心理学研究 31.1 (2017): 55-67.
- 高崎 美佐, and 中原 淳. "大学生の就職における情報探索が自己と仕事に関する認知変化に与える影響：企業に関する情報収集の媒介効果に着目して" 日本労務学会全国大会研究報告論集 日本労務学会 編 46. (2016) : 27-34
- 前田佐恵子, et al. "新卒時就職活動の失敗は挽回可能か?―家計研パネルの個票を用いた女性就業の実証分析." ESRI ディスカッションペーパーシリーズ 234 (2010)

謝辞

本研究にご協力いただいた大学の先生方、就職活動生の皆様、コミュニケーションシートをデザインしていただいた山口直美氏、研究室の指導教員である早川克美先生、浅井由剛先生に感謝の意を表します。

ありがとうございました。

参考文献

- Korthagen, Fred AJ. "Reflective teaching and preservice teacher education in the Netherlands." *Journal of teacher education* 36.5 (1985): 11-15.
- 村上忠幸, and 向井大喜. "「深い学び」 を実現するための探究学習とは (2)." 教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要= Journal of Education Research Center for Educational Career Enhancement 1 (2019): 1-10.
- 金子瞳, and 松本健義. "成人学習の視点からとらえる教師の学びと省察." 上越教育大学研究紀要 40.2 (2021): 399-412.
- 石黒香苗. "希望通りでない一般企業へ就職をした大学新卒者の主観的体験プロセス: 進路への納得に至るプロセスに着目して." 産業・組織心理学研究 31.1 (2017): 55-67.
- 高崎 美佐, and 中原 淳. “大学生の就職における情報探索が自己と仕事に関する認知変化に与える影響 : 企業に関する情報収集の媒介効果に着目して” 日本労務学会全国大会研究報告論集 日本労務学会 編 46. (2016) : 27-34
- 前田佐恵子, et al. "新卒時就職活動の失敗は挽回可能か?—家計研パネルの個票を用いた女性就業の実証分析." ESRI ディスカッションペーパーシリーズ 234 (2010)
- 伊藤 英希、 (2021)、 教職大学院授業における現職院生の学級経営についての省察、 千葉大学教育学部研究紀要
- 山田 美穂、 (2021)、 臨床心理実習授業における「被傾聴体験」をめぐる多声的検討 : 担当教員と受講生それぞれの振り返りを通して、 就実大学大学院教育学研究科紀要
- 三國信夫, et al.（2022）、 ”就職活動生の内省を促す対話カードの開発” 日本教育工学会2022年秋季全国大会論文集